

アジア現代女性史

創刊号

*

創刊の辞

もくじ

【論文】

モンゴル国における女性研究の動向と研究紹介 4
今岡良子

タイとフィリピンにおける売春禁止主義とフェミニズム 14
藤目ゆき

北韓社会と女性の生活 37
金貴玉 (訳: 永谷ゆき子)

米軍政期 朝鮮婦女総同盟の組織と活動研究 49
梁東淑 (訳: 永谷ゆき子)

フィリピン文献目録 72
ジョイ・バリオス (訳: 河合大輔)

国際結婚をしたフィリピン在住韓国人にみる現代史 85
久津見香奈子

『女性・戦争・人権』学会の活動報告 90
大越愛子

11.16 ハシエンダ・ルイシタ 95
河合大輔

日本語訳発行にあたって 102
古沢加奈

ロスアンゼルスからの便り 106
ミアム・シルバーバーグ

執筆者プロフィール 112

アジア現代女性史研究会の活動報告と今後の計画 114
藤目ゆき

アジア現代女性史研究会編『アジア現代女性史』 創刊号発刊にあたって

代表 藤目ゆき

私たちは2004年4月、アジア現代女性史研究会を立ち上げました。創立メンバーは、女性学に共通の関心を抱きつつ、宗教学、日本史、アジア各地の地域研究、平和学と、専門がそれぞれ異なる数名の研究者です。研究会は第二次大戦終結から現在にいたるまでの約60年をタイムスパンとし、北はモンゴルから南は東ティモールにいたるまで、東アジア全域の女性史を協同して研究しようという大きな夢をもって出発しました。

日本軍性奴隷制度問題が1990年代にアジアの被害女性本人たちによって告発されるまで、この問題は日本の女性史研究の世界でほとんど無視されていました。研究者の世界にも根深い一国主義・自民族中心主義や性暴力のタブー視が、問題化を阻んできたのです。

現在、日本の女性史研究者のあいだでは、第二次世界大戦下の軍隊性奴隷制度問題こそ、重要な研究課題だという認識が定着し、多くの調査と研究が行われるようになりました。

が、第二次大戦後の戦争と軍事主義の下での女性の経験、冷戦時代から今日にいたるまでの軍隊性暴力をテーマとする研究は、まだ蓄積が浅いと言わなくてはなりません。それと同時に、一国主義や性をめぐる伝統的なパラダイムは依然として支配的であり、フェミニストによる侵略戦争協力や被抑圧階級の女性に対する差別といった問題の検証を回避しようとする傾向も依然として強いように思います。

自国の政府と軍隊による他国女性・被抑圧階級の女性に対する搾取や暴力には無頓着のまま、恵まれた日本人女性が恵まれた日本人男性なみの権利と利益を享受することに関心を寄せるというありかたは、かつて黒人女性解放運動家が欧米の白人ミドルクラスのフェミニズムを「帝国のフェミニズム」と批判したようなあり方とどれほど異なるでしょうか。

そうではない女性史を私たちは希求しています。趣旨に共感する仲間とともに、アジアの女性が経験してきた受難と抵抗の現代史を跡づけ、アジアの女性連帯・女性解放の未来を拓く女性史にこそとくみたいと願っています。「帝国のフェミニズムへの挑戦」の希望をこめて、アジア現代女性史研究会を立ち上げました。

創立メンバーは、準備過程から参加した金貴玉さん以外は日本在住者だけでした。が、一年間の活動を通して日本のみならず韓国、米国、フィリピンにも会員が増え、フィリピンにはM・J・B・バリオスさんとJ・タギワロさんの主宰でアジア現代女性史研究会のフィリピン組織が誕生しました。これからますます新しい会員が参加して、仲間の輪が広がるよう期待しています。

ジャーナル『アジア現代女性史』を出版することは、研究会を立ち上げた当初からの目標でした。多くの方々のご援助を得て、創刊にこぎつけたことを感謝しています。日本の内外で広く議論が喚起できることを願って、日本語版と英語版を同時に出版することにしました。みなさんが忌憚のない意見、感想、助言、批判を寄せて下さることをお待ちしております。